

作業学習支援案 窯業班

1 単元名「〇〇〇フェスタを成功させよう ～お皿や箸置きをたくさん作ってたくさん売ろう～」

2 単元について

○作業の概要

石膏型を使って小皿から大皿までの皿作りや箸置き作りを中心に行うとともに、筒を利用して顔の形をした貯金箱作りや博多おはじき作りにも取り組んでいる。1学期は皿作りや箸置き作りを通して、道具の使い方や粘土の扱い方など窯業の基本をまず学習し、様々な作業工程を経験することで製品作りに慣れるとともに、焼き物に対する興味や関心を高めることを中心に行っている。2学期は皿作りの生産ラインを整え、生徒一人一人が主体的に取り組むことで製作数を増やすことを目標として行っている。また貯金箱、博多おはじき作りにも取り組むことにしている。3学期は製品の完成度を一層高めながら、「〇〇〇フェスタ」に向けて販売の準備や計画にも力を入れて行う予定である。

○単元設定の理由

本単元で行う皿作りについては、「板作り」と「型成形」といった製作方法を取りながら取り組んでいる。「板作り」とは、粘土を両側に置いたタタラ板の厚さまで延べ棒を使って伸ばして板状にしていくことである。「型成形」とは、その板状にした粘土を石膏の皿型に載せ、砂袋で叩いて成形していくことである。その際、型の上に季節の植物の葉を置いて皿の模様としている。製作工程は、①成形、②磨き、③素焼き、④撥水剤塗り、⑤下絵付け、⑥施釉、⑦本焼きなどから成り立っている。生徒は素焼きまでの工程は一人一人同様に行うが、その後の工程は生徒の実態や課題に応じてグループに分かれて取り組み、メンバー全員が協力してひとつの製品を作り上げる形をとっている。

皿や箸置き作り等の窯業での製品作りは、「自分で物を作る」という経験を比較的短時間で達成できるため、生徒にとって分かりやすく、見通しを持って取り組める作業であると考え。また、多くの製作工程から成り立っているため、生徒の指示理解の状況や技能面での実態に応じて教師が適切な支援を行うことで、生徒が主体的に取り組むことが可能になる。さらに、石膏型での製品作りは形に個性が表れない反面、製品そのものの完成度に差が出ないため、生徒にとって満足感や物を作る喜びが得られやすいと考える。そして、素焼き以降の撥水剤・下絵付け・施釉の各作業工程では、グループに分かれてそれぞれの工程を分担し合いながら一つの製品を作っていくので、みんなで協力して作っていくという意識が高まり、共同で作上げたという喜びも感じることができると考える。さらに「〇〇〇フェスタ」での販売活動を目標とすることで、たくさんの方々に自分たちの製品を買っていただくためにはより良い製品作りが大切であることを生徒一人一人が意識することができる。よって本単元は、生徒が分かり、自ら主体的に動けるようになるために適した題材であると考え。

○班の構成

本グループは、1年生○人、2年生○人、3年生○人の計○○人で構成され、月曜日と火曜日の午前、木曜日の午前・午後と、週に3日間学習に取り組んでいる。3年生の○人は昨年度から窯業班で活動しており、主に再生粘土作りに取り組んできた。今年度からの生徒については、約6ヶ月間の製品作りを通して、道具の使い方や粘土の扱い方にも慣れ、毎回意欲的に作品作りに取り組んでいる。

3 単元における目標

- 自分で確実に作業できる工程を増やす。
- 時間いっぱい集中して作業に取り組むことができる。
- 自分に任された仕事を、責任を持って主体的に行うことができる。
- 自分で物を作る喜びや達成感を味わう。
- 友達と協力して一つの製品を作り上げる喜びや楽しさを味わう。
- 「○○○フェスタ」の生産目標達成に向けて、自分の力を精一杯発揮することができる。
- 自分たちが作った製品が売れる喜びを味わう。

4 単元における「子どもが自ら分かり動ける支援」を実践するための状況作りについて

(1) 「子どもが分かり自ら動ける」活動の進め方

① 見通しを持てるように

- ・製作工程表やカードを利用しながら、ある一定期間に製品作りをまずひと通り行い、次にそれぞれの工程を繰り返し行っていくことで、生徒に完成までの工程を理解させ見通しが持てるようにする。
- ・授業のはじめに本時の流れと作業内容を確認する。

② 分かって動けるように

- ・口頭で説明を行ったり、模範の動きを見せたり、生徒の手をとって一緒に活動する等、生徒の実態に合わせた支援を行う。また、工程カードを利用しながら視覚的に活動の理解を深めていく。その後同じ活動を繰り返し行うことで、生徒に対する支援を徐々に少なくしていく。

③ 意欲を持って主体的に動けるように

- ・作業工程やそれぞれの活動を繰り返し行うことで活動に対する見通しを持たせるとともに、成功体験をたくさん積ませることで、自分で作り上げることの喜びを味わわせる。
- ・作った皿の数が分かるように表を準備し、確認しながら意欲を高める。
- ・毎時間個人目標を立てさせ、始めに確認して最後に反省を行っていくことで、目標を意識させ、主体的に動けるように配慮する。
- ・2月に行う「○○○フェスタ」で、自分たちの作った製品をたくさんの方々に販売することを話題にして、期待感を高める。

④ 一人ひとりに、「分かって自ら動ける」作業があるように

- ・多くの製作工程の中から、生徒の興味・関心、指示理解や技術面の実態に応じて、一人で

取り組める作業を準備し、その活動を通して本人に自信をつけさせ、そのような活動内容を徐々に増やしていく。

(2) 「子どもが分かり自ら動ける」を支える場の設定と道具や補助具の工夫

① 分かりやすい場の設定

- ・授業の一連の流れを決めて繰り返し行うことで、授業に対する見通しを持たせ、生徒自身が何をすべきかを分かるようにする。
- ・作業用エプロンや皿作りに必要な道具（粘土板、延べ棒、たたら板、布、ニードル、石膏型、砂袋）の場所を固定し、皿作りの授業の始めには各自で準備し、終わりには元の場所に片付けるようにする。
- ・皿作りでは生徒一人一人に棚を準備し、作り終わったらそこに置いておくようにし、その時間にどれだけ自分が作ったか確認しやすくする。
- ・作業机は友達の活動の様子が見えることで、それぞれの意欲が高まるように、コの字型に机を配置する。また、作業の工程によってグループに分かれて作業を進めるので、各自集中して取り組めるように座席の配置を換える。

② 一人でも「分かる」「できる」ように道具や補助具を準備

- ・皿作りの工程が分かるように、全体掲示としての工程表や個人用としての工程カードを準備する。
- ・自分に取り組む作業内容を理解し、活動中もすぐに振り返ることができるように、撥水剤塗りの工程カードを準備する。
- ・皿作りの際に準備する道具が分かるように、掲示物を用意する。
- ・箸置きを底を磨きやすくするために、粘土板にサンドペーパーを貼り付けたものを準備する。
- ・皿を磨きやすくするために、手に握りやすいヤスリ付きのスポンジを準備する。
- ・皿や箸置き、博多おはじきを展示し、生徒が完成した製品をイメージしやすいようにする。
- ・後片付けの手順を示した掲示物を準備する。

5 単元計画

期 間	主 な 活 動		備 考
11 / 12 ～ 15	「板作り」と「型成形」による 皿作り	箸置き作り	
19～22	「板作り」と「型成形」による 皿作り	箸置き作り	
26～29	皿磨き	窯入れ	※窯入れ（素焼き）
12 / 3 ～ 6（本時）	窯出し→すす払い →撥水剤塗り	下絵付け	施釉（皿・箸置き）
10～13	撥水剤塗り	下絵付け	施釉（皿・箸置き） ・窯入れ ※窯入れ（本焼き）

17～20	窯出し →仕上げ磨き	箸置き作り	博多おはじき作り	
1/8～10	箸置き作り		博多おはじき作り	
15～17	「板作り」と「型成形」による皿作り			※窯入れ（素焼き）
21～24	窯出し→すす払い →撥水剤塗り	下絵付け	施釉（皿・箸置き）	※窯入れ（本焼き）
28～31	窯出し →仕上げ磨き	○○○フェスタの準備 （ラッピング，箱入れ）		
2/4～6	○○○フェスタの準備 （箱入れ，ラッピング，値札貼り，掲示物作成）			
7	○○○フェスタ			

6 個別の支援計画

名前	これまでの様子と本単元の個別目標	本時の個別の目標	達成への支援や手立て
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの工程を理解し，一人で皿や箸置きを仕上げることができる。 ●皿や箸置き等の製品の精度を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●絵の具の濃さや量に気をつけて，模様の形からはみ出さないように塗ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な作業ができているか見守り，必要に応じて声かけを行う。 学－2
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの工程を理解し，意欲的に取り組むことができるが，不十分なところもあり確認が必要である。 ●自分で確実に作業できる工程を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●お皿の裏に丁寧に撥水剤を塗ることができる。 ●自分から終了報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> お皿の底の部分に薄く線を引き，塗る範囲を指定する。 学－1
Cさん	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの工程を理解し，マイペースで作業に取り組むことができる。作業を重ねるごとに，報告の声も大きくなってきた。 ●自分で確実に作業ができる工程を増やすとともに，スピードを上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●箸置きの表にはみ出さないように撥水剤を塗ることができる。 ●決められた数で作業の報告を自分から行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告の回数を増やすために，10個ずつ箸置きを並べる枠を準備する。 運－1
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> 自分から作業に参加することは難しいが，声かけや直接的な支援を受けて参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●少ない支援で箸置きの施釉ができるようになる。 ●落ち着いて作業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に落ち着いて参加できるように，工程カードや短い言葉で指示を出す。 学－1， 学－2

	<ul style="list-style-type: none"> ●少ない支援でお皿の成形や箸置き の施釉ができるようになる。 ●時間いっぱい作業に取り組むこと ができる。 		
E さん	<ul style="list-style-type: none"> ・窯業への興味・関心が強く、意欲的 に取り組むが、疲れやすい。(疲れる 情緒が不安定になる。) ●自分で確実に作業できる工程を増 やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●釉薬が均等になるように気 をつけて施釉することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり沈めたか確認さ せ、10秒間自分で数えて 浸すようにする。 学ー8 ・意欲を高め、自信を持っ て取り組めるように、でき たことを賞賛する。 心ー1
F さん	※抽出生としているので「7. Fさんの目標と支援の手立て」をご覧ください。		
G さん	<ul style="list-style-type: none"> ・作業は再生粘土作りを昨年度から行 っている。お皿や箸置き作りも徐々に 慣れてできるようになってきた。 ●時間いっぱい集中して作業に取り 組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時間いっぱい集中して作業 に取り組むことができる。 ●決められた数の箸置きの施 釉に落ち着いて取り組むこと ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて作業に取り組 めるように、本人が好きな 再生粘土作りの時間を設 定し、本人が集中しやすい 硬さと量の粘土を準備す る。心ー1 ・集中力が持続できるよう に、施釉する箸置きを何回 かに分けて渡す。心ー3
H さん	<ul style="list-style-type: none"> ・雑な面はあるが、ほとんどの工程は 少しずつ理解して取り組めるよう になってきた。 ●素焼きまでの工程を自分の力で行 うことができる。 ●自分に任された仕事を、責任を持っ て取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●撥水剤をお皿の裏の決めら れた範囲にムラなく塗ること ができる。 ●作業の確認を忘れずに行 うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お皿の底の部分に薄く線 を引き、塗る範囲を指定す る。学ー1 ・確認を忘れたときには、 その都度声かけをして促 す。学ー2
I さん	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの工程を理解し、一人で皿 や箸置きを仕上げることができる。 ●皿や箸置き等の製品の精度を上げ る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●絵の具の濃さや量に気をつ けて、模様の形からはみ出さ ないように塗ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な作業ができてい るか見守り、必要に応じて声 かけを行う。学ー2
J さん	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの工程を理解し、マイペ ースで作業に取り組むことができる。 ●自分で確実に作業ができる工程を 増やすとともに、スピードを上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人でお皿の裏に撥水剤を 塗ることができる。 ●作業の報告を忘れずに行 うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告を忘れたときには、 その都度声かけをして促 す。学ー2

7 Fさん（抽出生徒）の目標と支援の手立て

(1) これまでの様子と本単元の個別の目標

○これまでの様子

- ・ほとんどの工程は、繰り返して行うことで少しずつ理解して取り組めるようになってきた。
- ・作業中に気が散って離席や動きが止まってしまうことがある。

○本単元の個別目標

- ・自分で確実に作業できる工程を増やす。
- ・自分に任された仕事を、時間いっぱい集中して取り組むことができる。

(2) Fさんを支える状況作り（「自ら分かり動ける」支援のあり方）

（主体的に活動するために）

- ・製作工程表やカードを利用しながら、ある一定期間に製品作りをまずひと通り行い、次にそれぞれの工程を繰り返し行っていくことで、完成までの工程を理解させ見通しがもてるようにする。
- ・授業のはじめに本時の流れと作業内容を確認する。
- ・作業工程やそれぞれの活動を繰り返し行うことで活動に対する見通しをもたせるとともに、成功体験をたくさん積み重ねることで、自分で作り上げることの喜びを味わわせる。
- ・作った皿の数が分かるように表を準備し、確認しながら意欲を高める。
- ・毎時間個人目標を立てさせ、始めに確認して最後に反省を行っていくことで、目標を意識させ、主体的に動けるように配慮する。

（主体性を支える場の設定や道具や補助具などの工夫）

- ・授業の一連の流れを決めて繰り返し行うことで、授業に対する見通しをもたせ、生徒自身が何をすべきかを分かるようにする。
- ・作業用エプロンや、皿作りや箸置き作りに必要な道具（粘土板、延べ棒、たたら板、布、ニードル、石膏型、砂袋等）の場所を固定し、皿や箸置き作りの授業の始めには準備し、終わりには元の場所に片付けるようにする。
- ・皿作りの工程が分かるように、個人用としての工程カードを準備する。
- ・皿作りの際に準備する道具が分かるように、掲示物を用意する。
- ・箸置きを底を磨きやすくするために、粘土板にサンドペーパーを貼り付けたものを準備する。
- ・皿を磨きやすくするために、手に握りやすいヤスリ付きのスポンジを準備する。
- ・皿や箸置き、博多おはじきを展示し、完成した製品をイメージしやすいようにする。
- ・自分が取り組む作業内容を理解し、活動中もすぐに振り返ることができるように、撥水剤塗りの工程カードを準備する。
- ・後片付けの手順を示した掲示物を準備する。

8 本時の計画

(1) 目標

- ・素焼きしたお皿や箸置きを、撥水剤塗り・下絵付け・施釉の各工程をグループに分かれて分担し合いながら作り上げることができる。
- ・再生粘土作りに落ち着いて取り組むことができる。
- ・集中して時間いっぱい作業に取り組むことができる。
- ・作業報告と確認を忘れずに行うことができる。
- ・道具の準備と後片付けが自分でできる。

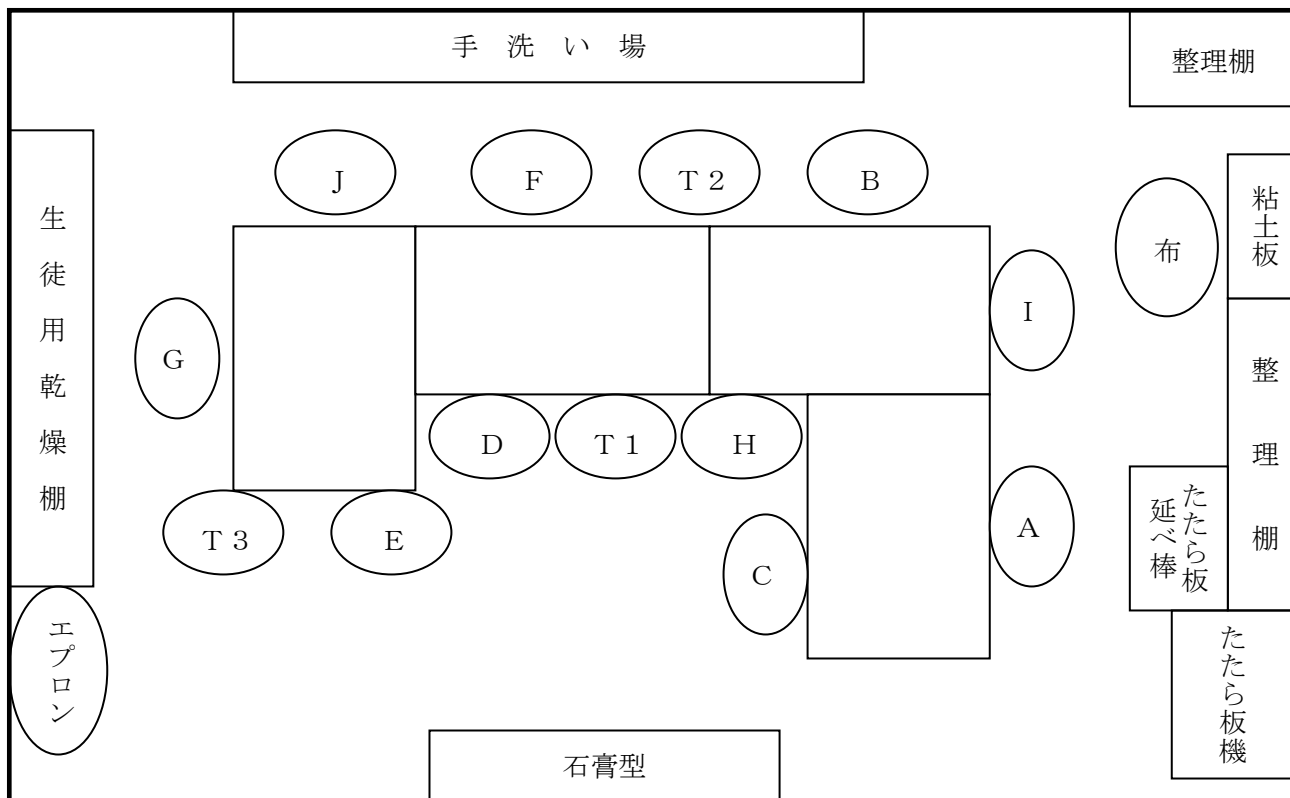
(2) 展開

配時 (分)	○生徒の活動 ■Fさんの目標	◆Fさんの支援上の留意点	◇全体の支援上の留意点
1	○はじめのあいさつをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">・エプロン</div>		◇当番の生徒は前に出てあいさつをするように促す。 [学]－2
2	○今日の作業内容を聞く。 ■自分の作業内容をよく聞いて理解することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">・作業内容カード</div>	◆カードを利用して本人に確認をする。 [学]－1	◇自分の作業内容が分かるようにカードを提示しながら丁寧に説明をする。 [学]－1
7	○本時のそれぞれの活動や個人目標を確認する。 ■個人目標を考えて発表することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">・個人目標カード</div>	◆本人に合った目標が立てられるように声かけを行う。 [学]－2	◇それぞれに合った目標が立てられるように声かけを行う。 [学]－2
3	○作業工程ごとに、必要な道具の準備をする。(撥水剤塗り・下絵付け・施釉・再生粘土作り) ■自分で必要な道具の準備ができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">・準備する道具のカード</div>	◆道具の準備ができていない場合には、準備する道具のカードを確認させる。 [学]－1	◇道具の準備ができていない生徒には、準備する道具のカードを確認させる。 [学]－1
20	○お皿の撥水剤塗りをする。 (生徒B, F, H, J) ■撥水剤をお皿の裏の決められた範囲にムラなく塗ることができる。	◆お皿の裏に薄く線を引いておき、塗る範囲を指定する。 [学]－1	◇必要な生徒には、お皿の裏に薄く線を引いておき、塗る範囲を指定する。 [学]－1 ◇決められた範囲にムラなく撥水剤を塗るように適宜声を

	<p>■目標枚数まで集中して撥水剤を塗ることができる。</p> <p>■一枚塗り終えるごとに報告をすることができる。</p> <p>○箸置きを撥水剤塗りをする。 (生徒C)</p> <p>○お皿の下絵付けをする。 (生徒A, I)</p> <p>○お皿と箸置きを施釉をする。 (生徒D, E, G)</p> <p>○再生粘土作りをする。 (生徒G)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・素焼きしたお皿と箸置き ・粘土板 ・撥水剤 ・筆 ・下絵の具 ・釉薬 ・さん板 ・釉掛けはさみ ・作業内容カード ・目標達成カード ・箸置きを並べる枠 ・再生粘土 ・新聞紙 </div> <p>10 ○使った道具の片づけをする。</p> <p>■自分で使った道具を、きれいにしてから元の場所に戻すことができる。</p> <p>5 ○本時を振り返り、それぞれの目標が達成できたか報告しあう。</p> <p>■今日の活動を振り返って発表することができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・個人目標カード ・目標達成カード </div> <p>1 ○次時の作業内容を聞く。</p> <p>1 ○おわりのあいさつをする。</p>	<p>◆決められた範囲にムラなく塗るように適宜声をかける。 [学]ー2</p> <p>◆集中力が持続するように、一枚塗り終わるごとに目標達成カードにシールを貼るようになる。 [心]ー2</p> <p>◆一枚塗り終えるごとの報告ができていない場合には、カードを示して促す。 [学]ー1</p> <p>◆動きが止まっている場合には声かけを行う。 [学]ー2</p> <p>◆今日の活動を本人に確認しながら一緒に振り返る。 [学]ー2</p> <p>◆本時の作業内容や目標が達成できたかを報告させ、みんなに評価してもらい自信をつけさせる。 [心]ー2</p>	<p>かける。 [学]ー2</p> <p>◇集中力が持続するように、一枚塗り終わるごとに目標達成カードにシールを貼るようになる。 [心]ー2</p> <p>◇撥水剤を塗った箸置きを、10個ずつ並べる枠を準備する。 [運]ー1</p> <p>◇集中力が持続できるように、施釉する箸置きを何回かに分けて渡す。 [心]ー3</p> <p>◇意欲を高め、自信を持って取り組めるように、できたことを賞賛する。 [心]ー2</p> <p>◇落ち着いて作業に取り組めるように、扱いやすい硬さの粘土を準備し、再生粘土作りを適宜行う。 [心]ー1</p> <p>◇動きが止まっている生徒には声かけを行う。 [学]ー2</p> <p>◇本時の活動を振り返る。必要のある生徒は、話しながら一緒に確認する。 [学]ー2</p> <p>◇本時の作業内容や目標が達成できたかを報告させ、みんなに評価してもらい自信をつけさせる。 [心]ー2</p>
--	--	--	---


※ 内は活動で使用する道具および補助具を表します。




9 場の設定と配置






10 本単元で使用した補助具や道具の工夫

製作工程表（「板作り」「型成形」）	工程カード	作った皿の数表
<p>○全体掲示用の「板作り」と「型成形」の工程表を準備し、工程の手順を誰でもいつでも確認できるようにし、見通しを持って取り組みやすくする。</p>	<p>○個人用の「板作り」と「型成形」の工程表を準備し、完成までの工程を理解しやすくするとともに、見通しをもって自分のペースで取り組みやすくする。</p>	<p>○作った皿の数を表にして全体に掲示することで、一人一人に目標をもたせたり、意欲を高めたりする。</p>

皿作りに必要な道具の場所	皿作りで準備する道具のカード	製作したものを置く個人用の棚
		
<p>○作業用のエプロンや道具の場所を、生徒が自分で準備や後片付けがしやすいように固定し、自分で分かって動けるような場の設定をしている。</p>	<p>○決められた場所から道具を準備する際に、必要なものが分かるようにカードを準備し、生徒が一人でそろえられるようにする。</p>	<p>○その時間にどれだけ自分が作ったか確認しやすくするために、生徒一人一人に棚を準備し、作り終えたらそこに自分で持って行って置くようにする。</p>

後片付けの手順の掲示物	個人目標カード	完成品の展示
		
<p>○生徒が自分で考えて動けるように後片付けの手順カードを掲示し、その手順に沿って毎回行い見通しをもたせる。</p>	<p>○毎時間生徒一人一人に個人目標を立てさせ掲示することで、生徒がより意欲をもって主体的に動けるようにする。</p>	<p>○製作する皿や箸置きや博多おはじき、貯金箱を展示し、生徒が作る際に完成した製品をイメージしやすいようにする。</p>

タイマー	皿磨き用スポンジ	箸置き磨き
		
<p>○生徒が作業の終わりの時間を意識できるように、タイマーで作業の終了を知らせている。</p>	<p>○生徒が持ちやすく磨きやすいように、ヤスリ付きのスポンジを使用している。このヤスリ付きのスポンジは洗って何度も使用可能である。</p>	<p>○サンドペーパーを持って箸置き磨きの底が磨きにくい生徒は、サンドペーパーを粘土板に貼り付けた物を使用している。</p>